

は黒ずんで大きかったものが、血色が良くなり小さくなったかんじです。筋肉もついて体もひとまわり大きくなりました。

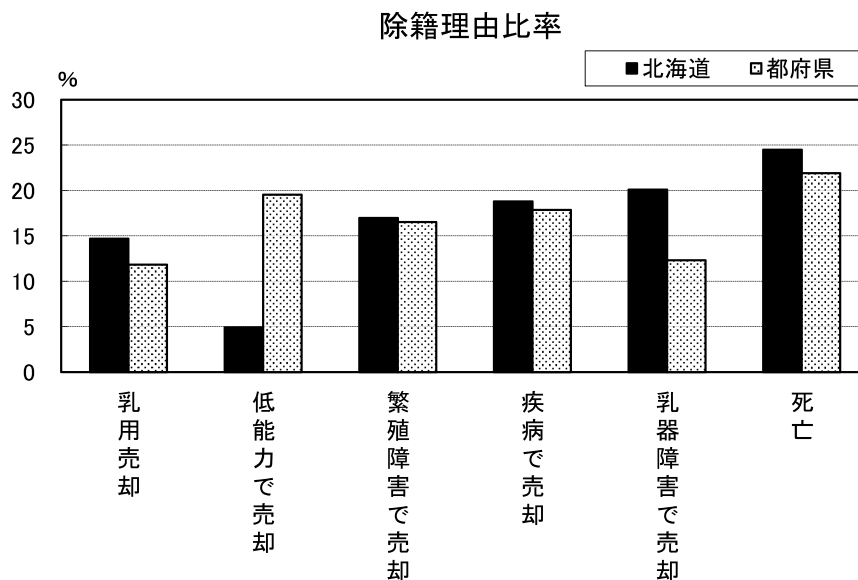
保護された施設でもとても大切にされていたようです。しかし、中型犬に十分な運動をさせるのは施設ではむずかしいでしょうし、住む場所や世話をしてくれる人が次々と変わってストレスもあったことでしょう。それにしてもわずか数か月での変化はこちらがびっくりするほどでした。

えっ、いくらホルスタイン模様とはいえ、牛でなく犬の話？いえいえ、「遺伝的改良も大切ですが、その能力を十分に発揮させるには育成や飼育環境も大事です」というLIAJ広報誌にふさわしいお話でした???

さて、「牛めが子をなして」も連載を始めて丸四年が過ぎました。書いている本人がネタに困り、マンネリを感じているのですから、読んでいる方はさぞかしと申しわけない気持ちでいっぱいです。「そろそろいいんじゃないですか？」と編集部に訴えたのですが、許してもらえません。

苦し紛れに新しい企画を考えました。次回からは助っ人の力も借りて少し違った形で続けたいと思っています。「牛めが子をなして…獣医が牛を飼ってみた編」をお届けする予定です。いま少しおつきあいください。

## 牛群検定ビッグデータ（その10）



検定成績による除籍理由比率をみてみると、死亡による除籍を除き、北海道と都府県では若干傾向が異なるようです。

北海道では乳器障害、都府県では低能力で売却による除籍が多い事が見て取れます。除籍コードを正しく報告する事で飼養管理のどこに問題があるのか原因を切り分け、管理改善へつなげていく事が可能です。